

I. ボランティアセンター活用実態 (2023年4月1日～2024年3月31日)

1. 学外ボランティア情報の提供

(1) 学外登録団体数 ※ () 内は22年度のデータ

登録団体の総数	149 (116)
2023年度の新規登録	34 (27)
2022年度からの継続登録	115 (89)

(2) ボランティア募集情報 ※ () 内は22年度のデータ

ボランティア募集情報の総数	91 (90)
---------------	---------

(3) 2023年度：学生ボランティアの受け入れに関するアンケート結果 (n=82)

当センターに登録していただいている学外団体を対象に、2023年12月末～2024年2月にかけて、アンケート調査を実施。立教生の受入状況や活動実態、当センターへの要望などを把握した。

① 2023年度における立教大学の学生ボランティア受け入れ実態 (n=82)

「受け入れた (=24)」「申込みがなかった (=38)」「募集しなかった (=12)」

「その他：申込みがあったが、実際の活動参加はなかった (=4)、申込みがあり進行中 (=2)、所属大学名のデータがないため不明 (=2)」

② 学生ボランティアの活動状況 ※立教生を受け入れた団体のみ回答 (n=24)

※団体を特定できないように一部表現を修正して表記。

本学で募集した内容	人数	活動に参加した立教大生の「よかった点」
障害者スポーツ大会 補助員	70人	積極的に活動してくださる、臨機応変に対応してくださるので、大変良かったです。
学習支援ボランティア (埼玉県内における生活困窮世帯の子どもへの学習支援)	57人	笑顔で活動できており、子どもを安心させることができていた。大学生自身が活動を楽しむことができていた。発達障がいの子どもの外へ出て行ってしまった時、しっかりと後について行ってその子のペースに合わせることができていた。就職活動で一時的に活動を休止したが、就職が決まった後に活動再開し精力的に活動していた。元々は授業のレポート課題の一環としてボランティアに参加したが、その後も継続的に参加していた。
こどもキャンプボランティア	12人	事前研修も、当日の参加も直前キャンセルや遅刻などもなく、毎年「立教の学生さんなら大丈夫」という安心感があります。
国際ワークキャンプ	11人	
地域・子ども食堂、 フードパントリーの運営	10人	子ども食堂やフードパントリーの運営方法がどの様なものか深く関心を持ち、自発的に食材詰めやお弁当の配布、受け取りに来る方との交流をしてくれて、大変助かりました。
フィリピン/マレーシア ワークキャンプ	9人	初回参加後にさらにプログラムリーダーとして活躍していること。(2回目の参加で、新しい参加者を率いて現地へ行きます)
スリランカ/モンゴル/国内 ワークキャンプ	7人	真面目で、穏やかな優しい学生が多い。その場の状況や全体のバランスを見て動けるような学生が多い。
子ども食堂	6人	皆さん真面目に取り組んでくれて良かったです。
高校生や中学生に対する学習支援	5人	非常に真面目に主体的に参加してくれました。

野外イベントで環境対策活動を行う単発のボランティア、プロジェクト運営に関わる長期ボランティア	4人	1名は長期ボランティアとして、積極的に参加していただいています。
小中学生を対象とした居場所づくりと学習支援	3人	主体的に活動に参加している点。
夏休み自然体験キャンプのリーダー	3人	
こども向け職業体験プログラムの運営	2人	積極的に活動していただきました。
イベントサポート	2人	積極的にお客様と笑顔で対応していただき弊社の活動も理解していただきました。
私らしい仕事発見プロジェクト	2人	とても意欲的に参加してくれた。
子ども食堂の活動	1人	対応も丁寧で自ら作業を見つけている姿が素晴らしかったです。
きょうだい児と遊ぼう	1人	熱心だった。
子どもキャンププロジェクト	1人	積極的に参加をし、チームをより良い方向へ導く発言や行動がたくさんあります。
フリースクール運営補助	1人	積極的に支援対象の児童に関わり、目標を持ちながら活動に参加していただいています。現場でのコミュニケーションも円滑で、リーダー的存在として活躍されています。
区民まつり	1人	利用者に積極的に接してくれてとても良かったです。
カフェで子どもの学びを支援する活動	1人	
(ボランティア募集はしなかった)	1人	積極的に自分の意見を出しながら、新しいツールも活用して取り組んでいた。仕事の方向性を理解したあとで、掘り下げたアイデア出しがよかった。繰り返しの修正が入っても、良いものを作り上げようという姿勢がよかった。
団体の広報、イベントスタッフ、企業との連携促進、営業	1人	積極的に団体の成長に関わる点やクライアントに関わってくれた。 高校生や中学生にも、大学生の先輩として親身に接してくれた。
まつりサポート	1人	積極的に手伝ってくれ、またコミュニケーション力もあり、大変助かりました。

③ 「申込みがなかった」団体からの要望 (=38) ※寄せられた声の一部

(継続してほしいこと)

- ・ 学生の方を対象とした、海外を対象としたNPOの取組や、ボランティア活動募集の説明会
- ・ 学生たちが参加した活動、興味を抱いている活動などの広報活動はぜひ継続して発信してください。
- ・ ぜひ、次年度はお手伝いいただけるよう、声掛け等をお願いします。

(当センターへの要望)

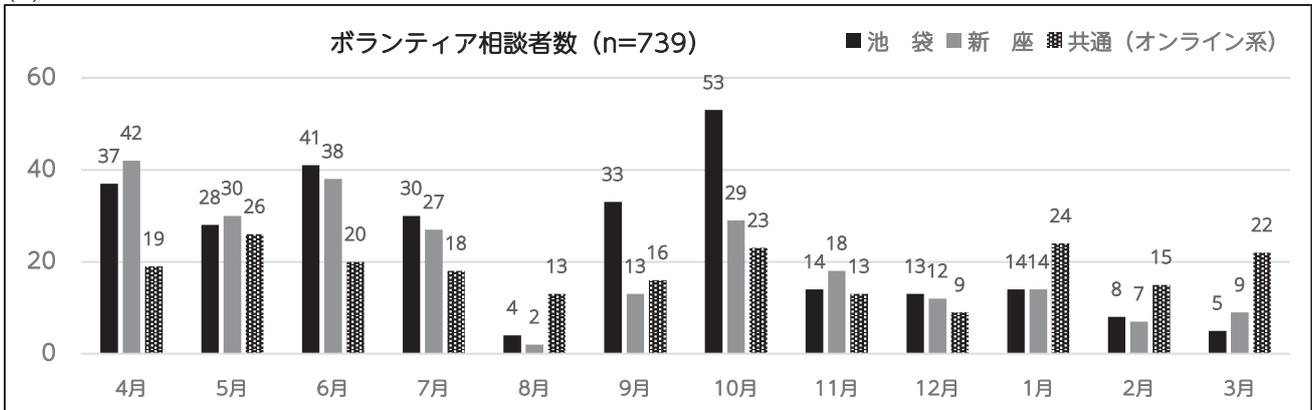
- ・ 立教大学様内で活動されている国際ボランティアサークルと、海外を対象としたNPOとの情報交換会などの企画や紹介。
- ・ 学生と地域が繋がるような、地域で活動している団体向けの取り組みにも力を入れていただきたい。
- ・ 団体だけでなく、学生の方に個人での申し込みをしてほしい。

2. ボランティア相談対応の実態 ※集計期間：2023.04.01～2024.03.31

～ボランティア相談として記録しているもの～

ボランティア相談は、「ボランティア相談票」を用いるようなやりとり、ボランティアセンターやボランティア活動に関するセンターの判断やアドバイスが必要なやりとりをした件（人）数を示す。

(1) ボランティア相談者の総数



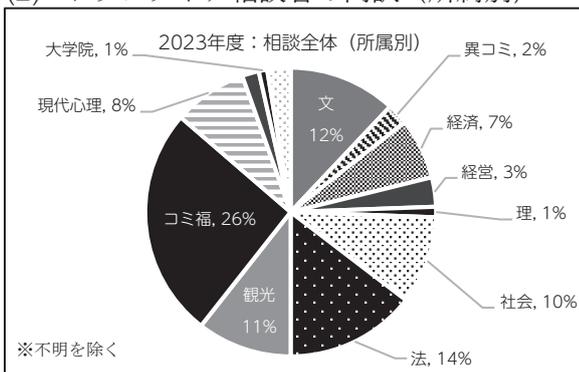
「ボランティア相談者の総数 (=739人)」

= 「学生 (=461人)」 + 「教職員 (=46人)」 + 「地域 (=232人)」

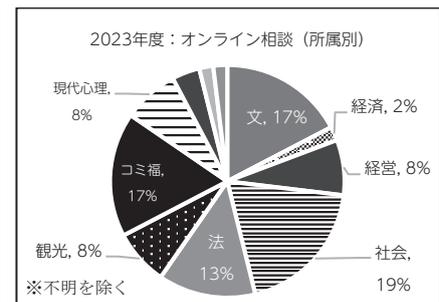
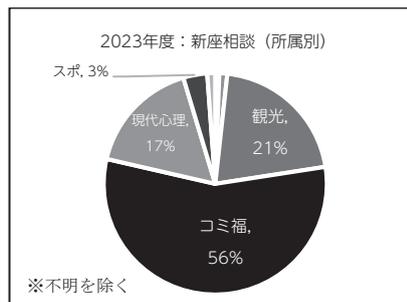
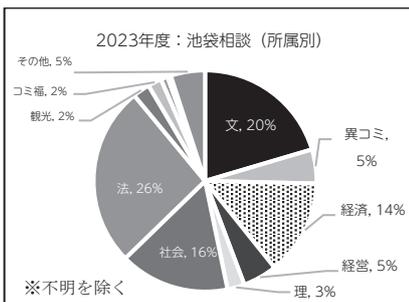
- ・ 10月 (=105) が最多で、6月 (=99)、4月 (=98) と続いた。
- ・ 夏休みが明けてすぐの10月は、「ポール・ラッシュ博士記念奨学金」の募集に関する相談や学生サークル、地域団体からの相談が増加したことで、最多となった。
- ・ 相談方法については、「来室相談」が前年度から100件以上も増加した。学生だけでなく、地域の方が来室することも増えた。そもそも地域からのボランティア相談件数が前年度よりも大幅に増加しており、コロナ禍の影響から復調してきた様子が見られた。

相談方法	
来室相談	468
メール相談	208
電話相談	53
Zoom	9
その他	1

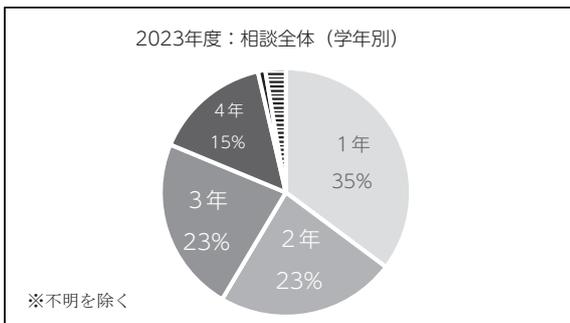
(2) ボランティア相談者の内訳 (所属別)



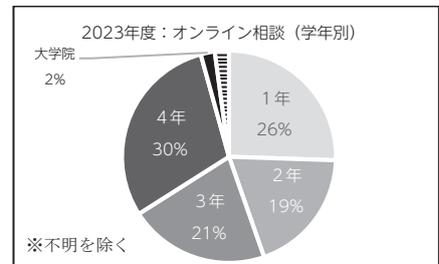
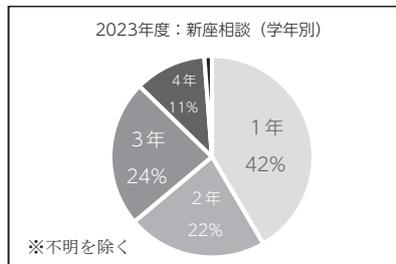
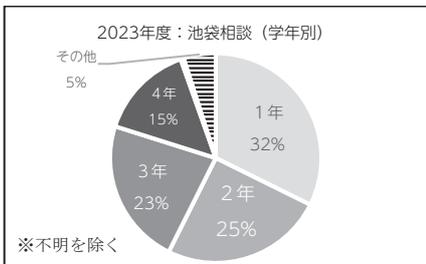
- ・ 学部別で見ると、「コミュニティ福祉学部」の学生の割合が最も大きく、全体の4分の1を占めた。
- ・ 池袋は「法学部」「文学部」の割合が大きかったが、「法学部」は前年度まで割合が低かったため、今回大幅な増加となった。
- ・ 新座は前年度と同様に「コミュニティ福祉学部」が他学部を大きく離して割合が大きかった。



(3) ボランティア相談者の内訳（学年別）



- ・学年別では、「1年生」の割合が最も大きく、続いて「2年生」「3年生」の割合が並んだ。
- ・池袋・新座ともに「1年生」の割合が最も大きいですが、前年度は全体で見ると「2年生」「3年生」の割合が大きかったため、大きな変化となった。
- ・「4年生」からの相談は、メールを含めたオンラインによるもの多かった。



(4) 学生の関心分野（ボランティア相談シートの記入情報から）

「ボランティア相談」の際は、基本的に「ボランティア相談票」を用いて対応する。時間の制限などがあり、「ボランティア相談票」を用いない簡易的な対応をする場合もあるが、相談票の設問に回答することで学生自身が自分のやりたいことを見つけたり、地域の方がその要望を伝えたりしやすいようにしている。

ボランティア相談の内容は、主に「1.ボランティア活動をしたい」「2.活動上の相談」「3.ボランティアを募集したい」「4.協力依頼」の4項目である。

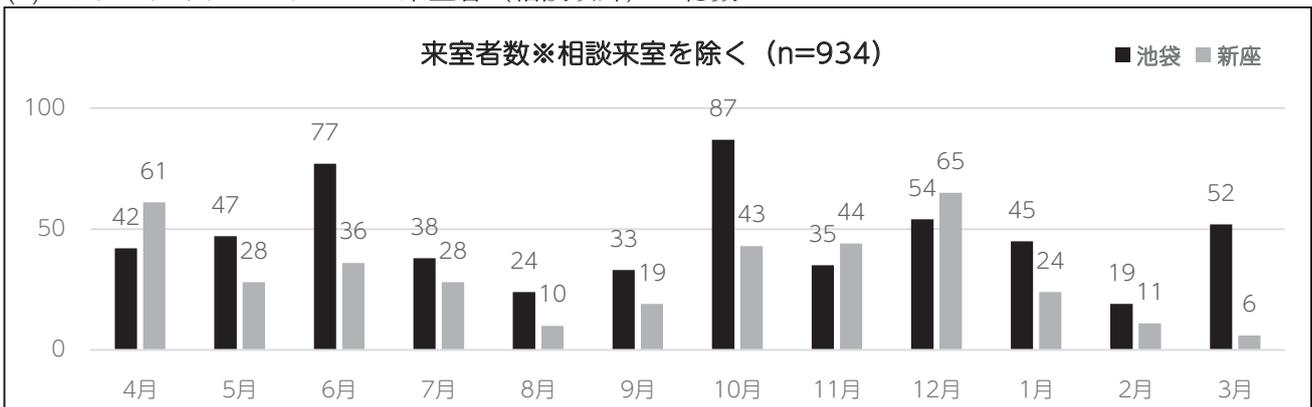
活動分野	回答者数 (n=94)
子ども	50人
国際交流・国際協力	50人
観光	42人
まちづくり	39人
文化・芸術	32人
農山漁村・中山間地域の振興	30人

「1. ボランティア活動をしたい」に回答した相談者の内、「希望する分野」のチェックリスト（複数回答可）の回答から、学生の関心が高い活動分野を抽出したところ、「子ども」「国際交流・国際協力」分野への関心が高かった。前年度も「子ども」分野への関心が最も高かったが、今年度は「国際交流・国際協力」への関心も高くなった。

3. ボランティアセンターへの来室実態 ※集計期間：2023.04.01～2024.03.31

～ボランティア相談を除いた来室者数として記録しているもの～
チラシ閲覧のみで相談のない方、ボランティア活動以外の相談で来室した方、ミーティング場所としての利用、鍵の受け渡し・イベント申し込みなどの事務的なやりとり等で訪れた方の総数を示す。

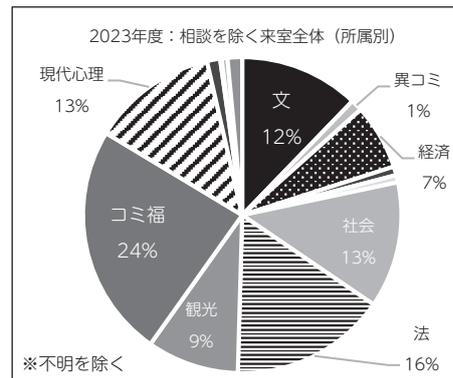
(1) ボランティアセンターへの来室者（相談以外）の総数



「来室相談者 (=468人)」 + 「相談を除く来室者 (=934人)」
 = 「ボランティアセンター来室者の総数 (=1,402人)」

来室者総数 (キャンパス別)	
池袋	809人
新座	593人

- ・ボランティアセンターへの来室者については、目的別に「ボランティア相談 (※2.ボランティア相談対応の実態で集計)」 「ボランティア相談以外」の2つに分けて集計した。
- ・池袋は、前年度と同様にエコキャップ回収に関連する作業やセンター内での打合せ、イベント開催など、相談以外の目的でも多くの学生が来室した。
- ・新座は、4～12月に前年度の来室者数を上回るなど、年間を通して来室者が増加した。



4. 広報メディアの登録者数・アクセス数 ※2024.03.31時点 ※ () 内は22年度のデータ

(1) メールマガジン

登録者の総数	4,123人 (4,011人)
2023年度の新規登録者数	139人 (63人)
2022年度からの継続登録者数	4,011人 (3,948人)
配信メール数	13 (11)

- ・月に1回、月初に発行。(不定期の臨時号もあり)。
- ・公式noteで公開しているメールマガジン記事を、登録者あてにメールで配信した。

(2) X (旧Twitter) (2011.04～)

登録者の総数	2,956人 (2,916人)
2023年度の新規登録者数	63人 (193人)
2023年の投稿数	172 (78)

- ・2023年度は月平均14回以上投稿。
- ・設立20周年記念イベントなどの開催もあり、発信内容が豊富だった。
- ・登録者数は前年度比で、40人増加。

(3) Instagram (2019.04～)

登録者の総数	445人 (268人)
2023年の投稿数	71 (56)

- ・2023年度は月平均5回以上投稿。
- ・画像をベースにした投稿、特にイベント情報等の案内を行った。

(4) note (2022.11～)

登録者の総数	21人 (6人)
2023年度の総ビュー	9,697 (2,997)
2023年度の新規公開記事数	44 (20)

- ・学生の活動の最新情報を発信するメディアとして機能している。
- ・これからボランティア活動を始めようとしている学生が過去の活動レポートを参考にしていた。

(5) YouTube (2022.10～)

登録者の総数	5人 (1人)
2023年度の総視聴回数	792 (200)
2023年度の新規公開動画数	7 (4)

- ・主に、実施した説明会やイベントの様子を伝えるアーカイブ動画を公開。
- ・現在学生コーディネーターが制作した動画の公開を準備している。